



世界遺産を通じた交流 ～持続可能な保全を目指して～

和歌山県マハラシュトラ州事務所 大面 辰典

和歌山県と インド共和国マハラシュトラ州

2013年10月、和歌山県とインド共和国マハラシュトラ州は観光交流、食品加工および企業間協力の分野で覚書を締結しました。翌2014年には、和歌山県マハラシュトラ州事務所を開設し、本県職員を駐在員として派遣しています。こうした友好関係と覚書に基づき、観光セミナーやファムトリップ、企業間マッチング、さらには青少年交流などさまざまな交流を行ってきました。

2018年1月、覚書の期限である5年を迎えるにあたり、仁坂和歌山県知事が同州を訪問し、覚書をさらに5年更新しました。ファドナビス州首相との会談では、今後これまでの分野にとらわれず、交流をさらに発展させていくことで合意しました。



覚書（更新）への調印

世界遺産を通じた交流

和歌山県とマハラシュトラ州とが交流を行うことになったきっかけの1つとして、仏教と縁の深い世界遺産を有するという共通点があります。和歌山県には「紀伊山地の霊場と参詣道」があり、同州には「アジャンタの石窟寺院群」や「エローラの石窟寺院群」などがあります。

2014年6月、田辺市本宮町に位置する和歌山県世界遺産センターと、アジャンタ石窟寺院群に併設されるアジャンタ・ビジターセンターは協定を結び、互いの世界遺産を広報することや世界遺産の保全に係る技術交流を進めていくことになりました。この協定に基づき、2015年3月から2年間、アジャンタ・ビジターセン

ターの運営能力向上を目的とした JICA 草の根事業「インド・マハラシュトラ州における観光おもてなし支援事業」を実施しました。

そして、2017年4月から1年間、地域住民の世界遺産の保全意識を醸成することを目的に、クレアの自治体国際協力促進事業（モデル事業）として「インド・マハラシュトラ州における世界遺産地域次世代育成支援事業」を実施しました。

本事業においては、アジャンタ・エローラ石窟寺院群を有するオーランガバード市から6校を選定し、和歌山県が世界遺産保全のために実施している「次世代育成事業」を紹介し、生徒たちが地元の世界遺産について学習する支援を行いました。

「次世代育成事業」とは、地域住民との協働により世界遺産保全を行うという理念のもと、地域の生徒たちが世界遺産の大切さとその偉大さに気づき、誇りを持ってもらうために実施している事業です。

和歌山県での研修

2017年6月、オーランガバード市の6校から生徒と教員計12名を和歌山県に招き、研修を実施しました。



本宮中学校の生徒による語り部

初日の6月11日、生徒たちは和歌山県世界遺産センターを訪問し、次世代育成事業、道普請^(※)、曼荼羅絵解きなどの説明を受け、実際に熊野古道のトレッキングも体験しました。2日目は、本宮中学校と交流を行いました。ゲーム形式の自己紹介でお互いの緊張をほぐしたのち、生徒たちは笑顔で交流活動を行いました。

校内で交流した後、熊野本宮大社へ参拝し、語り部

ジュニア事業で学んだ本宮中学校の生徒による解説を受けました。和歌山県が実施する語り部ジュニア事業は、地域を学び、地域に誇りを持つ



東陽中学校での全体集合写真

た子どもを育成するための取り組みで、生徒は地元の文化や史跡について学習を行っています。

3日目に行われた田辺市の東陽中学校との交流では、岩陰遺跡、神楽神社、引き上げ港、砥石山など地域の史跡について語り部による発表が披露されました。また、インドの生徒たちは、アジャンタ石窟寺院群やダウラターバード要塞などの遺跡について発表を行い、交流を深めたあと、授業や部活動、黙掃を見学しました。

最終日には、和歌山城を見学した後、和歌山県庁を訪問しました。生徒たちは、和歌山県国際課長を表敬訪問し、研修の成果を報告しまし



和歌山県国際課長を表敬訪問

た。また、研修に同行していたマハラシュトラ州観光開発公社の職員は、知事を表敬訪問し、今後の両県州の交流に関して意見交換を行いました。

4日間の研修で、インドの生徒たちに、和歌山県では地域の住民や生徒たちが誇りを持って世界遺産の保全に取り組む様子を学んでもらうことができました。

また、和歌山県の生徒および教員たちは、生活習慣や文化の異なる国の人々と交流することで、多文化教育の観点から貴重な知見を得ることができました。

帰国後の郷土学習

本邦研修を終え帰国した生徒たちは、各学校でリーダーとなり、本県で学んだことを活かし、地域の地域や世界遺産について郷土学習を行いました。

各学校では、100～150人の生徒がアジャンタ石窟寺院群およびエローラ石窟寺院群の各遺跡を訪問し学習を行うとともに、アジャンタ・ビジターセンターおよび

エローラ・ビジターセンターで、遺跡の保全方法について発表を行いました。このような学習は各学校で、積極的に継続して行われました。

郷土学習の成果発表

2018年2月、インドの生徒たちは、和歌山県での研修以降、取り組んできた学習の成果を発表しました。和歌山県からは、専門講師を派遣し、学習成果の



成果発表の様子

確認および今後の世界遺産保全について意見交換を行いました。

発表は、伝統舞踊や演劇を取り入れるなど、各学校ともに創意工夫を凝らした内容が見られました。参加者からは、「地域住民である自分たちが地元の世界遺産を守っていく必要がある」という意見があり、和歌山県が重要と考える官民協働による保全が、今後この地域で行われていくと期待できるものでした。

今後の展開

本事業の実施を通して世界遺産の大切さや官民協働で保全を行うことの重要性を学んでもらうことができました。和歌山県での研修後も各学校において自発的に学習が行われていたことが、最大の成果と言えます。

今回の事業では、オーランガバード市内から選出した6校のみが対象でしたが、今後オーランガバード市内の全ての学校で世界遺産保全に関する学習が行われることが望まれます。

2018年4月、「インド・マハラシュトラ州における世界遺産地域次世代育成支援事業」は2年目を迎えました。本年度は、世界遺産保全に関する教材を作成し、市内の各学校に配布することを予定しています。より多くの学校へ学習機会を提供することで、世界遺産の保全意識が地域全体で向上していくことを期待しています。

※道普請：企業や有志のボランティアが道を修復する官民協働で行う保全活動